

## はじめに

滋賀県がん患者団体連絡協議会会長 菊井津多子

近年、がん治療が進歩し、がんは治る時代といわれるようになりました。がしかし、がんを告知された多くの方が「死」を意識し、治りたい。生きたい。という思いでがんと向き合っておられます。

平成19年より当協議会は滋賀県やがん診療連携拠点病院や保健所の協力を得て、滋賀県下7箇所で「がん患者サロン」を開催しております。参加された多くの方からは、「同じがん患者さんと話してこころが軽くなり、気持ちが安らいだ。」「皆様苦しい時期を乗り越えてきたのだと実感しました。早く自分もそうになりたい」「人生の先輩達の意見を聞き勇気をもらえた。」などの感想が寄せられております。ただ、参加したくても病状や地域性などで参加出来ない方がおられます。そんな方々の為に、この度、当協議会ががん体験集「こころ綴り あした天気にな〜れ」を発行することとなりました。今回の体験集発行には、貴重で尊いがん体験を次の代に受けつぎ、がん患者の精神的サポートの一端を担いたいという思いもあります。

この体験集は滋賀県民の体験に限っております。特別な方ではなくごく身近な一般の方の体験です。がんと向き合った生の声です。「今日は雨でもあしたは天気になって欲しい。」と願うがん患者やその家族のこころの綴りです。

今がん治療と向き合っておられる方が、がん治療の先に行く者がその体験から得た思いやメッセージ、英知を受け取ってご自身のがん治療のために役立てていただけることを願っております。

最後になりましたが、原稿を寄せていただいた皆様、又、メッセージを頂いた嘉田由紀子滋賀県知事、笹田昌孝滋賀県がん診療連携協議会会長様に心からお礼申し上げます。



余呉湖

